
第 26 章 聖徒の交わり

26. 1. すべての聖徒は、その御霊によって、そして信仰によって、彼らの頭であるキリストに結合されていて、その恵み・苦しみ・死・復活・栄光においてキリストと交わりを持ちます（1 ヨハネ 1:3、エペソ 3:16-19、ヨハネ 1:16、エペソ 2:5, 6、ピリピ 3:10、ロマ 6:5, 6、Ⅱテモテ 2:12）。そして、すべての聖徒は愛によって互いに結合され、各々持っている賜物と恵みの中で交際を持ち（エペソ 4:15, 16、1 コリント 12:7、3:21 - 23、コロサイ 2:19）、公的にも私的にも義務を履行し、内的にも外的にも相互の益になるようにします（1 テサロニケ 5:11, 14、ロマ 1:11, 12, 14、1 ヨハネ 3:16-18、ガラテヤ 6:10）

ウエストミンスター信仰告白書 26 章では、キリストが教会の頭であることと、すべてのキリスト者がキリストの教会に結合されていることを説明しています。1 項の始まり部分は、私たちがキリストにどのように結合されているのかを説明し、終わりの部分は、キリストとその民の交わりを扱います。信仰によってキリストを掴み、キリストに結合されることによって救いの恩恵に加わるようになります。キリストに結合された以降、キリストにあって生き、キリストから力を得、霊的な生活が維持できます。真の信者たちは、みなが結合されている限り、生きている体を成し、互いに聖なる交際によって交わりを維持します。これを聖徒の交わりと呼びます。

しかし、ローマカトリック教会と英国教会は、個人が聖礼典を通して教会と連結され、教会を通してキリストに連結されると主張します。これは誤りです。また、ドナトゥス主義者と分離主義者は、偽善者によって神に奉げる礼拝が汚染され、他の人々を汚染させると主張しながら、偽善者から自分を分離させなければならないと話します。しかしキリスト当時のユダヤ教会は、礼拝が相当、腐敗されていました。しかしキリストは、彼らからご自身を分離させずに、会堂に入られて説教なさいました。一方 20 世紀と、今日の世界教会連合 (WCC) は、教会の外的一致を強調するばかりか、礼拝を統一させようとする作業をしていて、外的統一のために神学的相違を無視して、誤りに対して目をつぶります。それが、キリストと信者との結合ではありません。真のキリストとの結合は、真の信者たちが前提されるべきです。さらに、人間が教会の連合を主導するものではありません。すでに聖霊が結合させて置かれたのを、ただ守るだけです (エペソ 4:3)。

26. 2. 信仰告白をした聖徒たちは、聖なる交際を維持しなくてはならず、神礼拝の中で交わりを維持させ、他の霊的奉仕を実行しながら、助け、互いに立てられるべきです (ヘブル 10:24, 25、使徒 2:42, 26、イザヤ 2:3、1 コリント 11:20)。各々多様な力によって必要に応じて物質的なものをも使い、互いに助けるのは聖徒の義務です。神が機会をくださる時、この交わりは、主イエスの御名を呼び求める、すべての所の人々に拡大されるべきです (使徒 2:44, 45、1 ヨハネ 3:17、II コリント 8、9 章、使徒 11:29, 30)。

聖徒が共に集まり公的に神を礼拝すべきであり、互いに徳を立てる霊的義務を果たすべきです。そして各々、力と機会に応じて物質を持ち施すべきです。機会を強調していることは、清教徒たちの共同体思想から、慈悲の働きの重要

性を強調しているからです。それは、教会の恵みの可視性を現すことになるでしょう。

26. 3. 聖徒たちが、キリストと持つ交わりは、どのような意味からでも、キリストの神性の本質に加わることにならず、また、ある面で、キリストと等しくならせることは、決してありません。これらの中で、どの一つでも同意することは不敬けんであり、神性冒瀆的なものになります(コロサイ 1:18, 19、1 コリント 8:6、イザヤ 42:8、1 テモテ 6:15, 16、詩 45:7、ヘブル 1:8, 9)。聖徒としての相互の交わりは、各人が自分の財産や所有に対して持っている権利を奪ったり侵害するものではありません(出 20:15、エペソ 4:28、使徒 5:4)。

信者が、キリストとの交わりを持つからと言っても、神性の本質に参加するものではありません。